

くらしの目線で市政を変える

こんにちは 日本共産党 西野さち子 京都府議会議員です!

発行：2020年5月31日 連絡先：京都市伏見区新町10丁目381 日本共産党伏見地区委員会 Tel:075(611)9135 FAX:075(602)9117



賭け麻雀 東京高検検事長 黒川氏 辞職

定年延長の閣議決定撤回 検察庁法廃案

幕引きは許されない!!

共産党京都府委員会が街頭から訴え



安倍内閣は多くの国民の声に押され、当初は検察庁法を含めた国家公務員法改訂案を継続審議にする考えでした。多くの著名人や元検事総長など検察OBからも「三権の分立を壊すことは許せない」と反対の声が上がり、今国会での採決を見送り継続審議にしようとなりました。しかし、その直後、黒川検事長が緊急事態宣言で国民には自粛を求めているさなかに、賭けマージャンをしていたことが発覚しました。世論がさらに大きくなり、廃案に追い込まれました。

ただ、黒川検事長は辞任し、処分は訓告のみで、退職金も出されず。法の番人でもあり、検事長と言う重要な役職の人物ですから、懲戒免職にすべきです。そして、

黒川検事長の定年延長を決めた閣議決定についても撤回すべきです。

日本共産党京都府委員会は、お昼休みの烏丸御池で宣伝をしました。前のビルからは「声が聞こえたから」と出てきてくださる方もありました。

議員日誌

市民のみなさんの願い実現へ一緒に動きます!!

新型コロナウイルス対応 京都市に 共産党議員団が第4次申し入れ

日本共産党市議員団は市民からの深刻な相談が後を絶たない状況の中、京都市の対応について「努力は一定認めるが、まだまだ足りない」として、5月18日に第4次の申し入れをしました。

今回は「収入減で倒産の危機が心配されている医療・介護・障害者施設への財政支援を含め、医療・検査体制の強化」「一律10万円の迅速な給付」「中小企業

者・芸術関係者・の事業継続やアルバイト収入減に直面する学生への支援」「子どもたちの学習支援」などを求めました。「第3次補正予算に反映させたい」

「市民の暮らしと営業の下支えをしっかりとやりたい」と危機管理監が応じました。



議会レポート

保健所機能を全行政区に戻すべき (5月市会代表質問)

5月市会の各会派代表質問が15日に行われ、日本共産党は井上けんじ(南区)議員と蔵田共子(上京区)議員が質問に立ちました。2人の議員は、新型コロナウイルスの影響で深刻な危機にある市民生活や医療・衛生・介護の支援や、京都市の財政の在り方を根本から問い直し、国の言いなりではなく、市民の暮らし優先の予算の考え方を示しました。質問の一つに、保健所の統廃合の問題を取り上げました。

今回のコロナ対応で明らかになったのは、10年前に11の行政区と4支所にあった保健所を市役所1か所にしてしまったことが、感染症対策や公衆衛生の政策に大きな問題を投げかけたことです。保健所機能を元に戻し、市民の安全対策をとるように求めました。市長は「その考えはない」と全く危機感のない答弁をしました。



目より ニュース

京都市が市営住宅の浴槽取り換え

市営住宅では、浴槽の取り換えは個人の責任でしたが、さびていたり穴が開いていたりして使えない浴槽は京都市が取り替えます。ステンレスになり、約10cmほど低くなります。お知らせをすると「知らなかった」「知り合いに知らせる」と言う方が多く、大変喜ばれています。「あきらめていたけど取り替えてもらった」と言う方も。是非、住宅供給公社にご相談を。